

第75回原子力委員会臨時会議議事録（案）

1. 日 時 1997年12月1日（月）11:00～11:25

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 谷垣委員長、伊原委員、藤家委員、依田委員
西澤高速増殖炉懇談会座長
（事務局等）加藤原子力局長、林政策課長
伊藤原子力調査室長
資源エネルギー庁 谷口審議官
森本秘書官
池本専門委員
森口動力炉開発課長
動力炉開発課 平尾、遠藤、山口
原子力調査室 松澤、新井

4. 議 題

- （1）高速増殖炉懇談会からの報告
- （2）その他

5. 配布資料

- 資料1 高速増殖炉懇談会報告書「高速増殖炉研究開発の在り方」
- 資料2 高速増殖炉懇談会報告書案に関するご意見と回答
- 資料3 高速増殖炉懇談会報告書 国民意見への回答（吉岡委員担当分）

6. 審議事項

（1）高速増殖炉懇談会からの報告

標記の件について冒頭、谷垣委員長へ高速増殖炉懇談会 西澤座長より懇談会報告書が提出され、西澤座長より報告書とりまとめの経緯、概要について説明があった。

これに対し、委員より、

- ・ 今回の報告書においては、将来の非化石エネルギー源の有力な選択肢として、高速増殖炉の研究開発を進めること、その場として「もんじゅ」を使って研究開発を続けるということが必要というご意見をいただいたわけであり、また、研究開発を進めるに当たっては広く国民の理解を得ることも必要条件であると理解する
- ・ 座長においては、「研究活動を一日もなおざりにすべきではない」という研究者の立場から、非常に幅広く議論していただいた
- ・ これまでの高速増殖炉開発は、軽水炉の次に実用化するものだという前提の下に世界が比較的硬直的な計画のもとに進められてきた。高速増殖炉懇談会では、様々な意見が出され、最終的に報告書では、新しい科学技術の研究開発の進め方について、大変まともな、あるいは当然とも言えるべき内容が盛り込まれたと認識。この報告書を素直に理解したいし、社会の方々にもこの中身を素直にご理解してもらいたい。原子力を人類社会や環境と本当に調和できる整合性のある科学技術に育てあげるという観点からみて、高速炉は十分その期待に沿える可能性をもっている。従来、原子力は主に資源論的観点から捉えられてきたが、今後は環境論的側面が一層重要になるところ、本報告書にはその芽がみられる

- ・今回の懇談会では色々な立場の考え方を各委員の方々が率直に議論していただいた。21世紀の我が国のエネルギー、環境問題を解決するため原子力あるいは高速増殖炉の意義や位置づけについて、本報告書は一定の合意を示すものであり、原子力委員会として報告書の意のあるところをよく理解して今後の原子力政策の検討に活かしたい
 - ・原子力のように長い時間のかかる研究開発に対しては、長期展望が明確になっていることが大事であり、これを現時点で再確認することが重要。現実と長期展望をどう整理、調整するかは政策的問題として目を向ける必要がある
 - ・「事故はいつでも思わぬところから起こりうるものである」ということを、今までははっきり言ってこなかったが、今回の報告書がこの点にはっきり言及していることは重要
 - ・研究開発に幅広い選択肢を持ち、国民的合意の下でこれを絞り込むことが重要であるが、報告書はこの点を示したものである
- 等の意見が出された。

また、西澤座長より、動燃事故は緊張感の足りない事故であり、技術者の教育が重要であることなどの補足意見があった。

これらを受けて委員長より、西澤座長への謝辞が述べられるとともに、原子力委員会として懇談会報告を重く受けとめ、速やかに審議の上、今後の高速増殖炉研究開発の在り方についての考えをまとめたい旨、発言があった。